ついに要求提出

福利厚生面の向上めざし

前時代的環境を打破

会社早くも妨害たくらむ

三池労組は中央委員会の決定にもとづいて、三井鉱山ならびに自治体（大牟田・荒尾両市）に対して、三池炭鉱労働者の職場・地域生活における福利厚生面の向上をめざす要求を提出した。これはもちろん働く者の権利であるばかりでなく、打ちつづく資本の合理化によって、その大切な労働条件とともに、この面でも次々に改悪され、まさに前時代的な環境を押しつけられてきた三池労働者として当然な、そして重大な要求である。三池労組は、断固として闘うことになった。

三池労組が提出した福利厚生要求は、全部で九十三項目（対会社要求＝八十五項目、対市要求＝八項目）にのぼるが、三池労組によって提出されたものばかりでなく、各地域分会もそれぞれ独自の要求をかかげて行動を起こすことになるから、こんどの福利闘争は文字通り組合総ぐるみの闘いとなって、春闘よりひと足先きにもりあがるいきおいにある。

本紙前号で伝えたように、会社側はいち早くその手先きの新労幹部らをあやつって、ゴマカシの福利厚生要求なるものをでっち上げさせ、（それはだれの目にも、会社どぐるになって計画した要求なることはハッキリしているが）そして早期妥結を行ない、それによって三池労組の闘いの足をひっぱる悪るだくみに出てきた。

だが、職場や地域で、しかも新労組員や下請の組夫仲間の真の要求までも結集して、民主的討議を積み重ねた上できめたこんどの要求は、三池労組としてちょっとやそっとのことで投げ棄てるわけにはいかないものであり、それだけに組合員や家族の怒りにいっそう油を注ぐ結果になることだろう。

いま、立ち上がりを目の前にしている職場や地域には、日ましに決意がみなぎっている。

「わずかですが何かの足しに……」

大阪の森田さんからカンパ

▼……先日テレビで「三池の十年」を見ました。働く者の連帯のあいさつをおくります。

同封したもの（カンパのこと）は、駅頭で、また職場で、働く仲間たちから集めたものです。わずかですが、何かの足しにして下さい。

中には三池労組に、と聞いてわざわざもどって来て、カンパしてくれた人もありました。がんばって下さい。ご健康をいのります。

大阪門真にて　一党員

▼なお、森田さんのお住まいは「大阪府門真市本町二〇―三」です。心からお礼を申し上げます。

また福岡県総評オルグの福岡正克さんほかの方々からも、「一円硬貨を貯金したものです。どうぞCOカンパに」とか、「闘争資金の一部にして下さい」とか、心のこもるカンパをいただいています。心から感謝致します。

先日テレビで「三池の十年」を見ました。働く者の連帯のあいさつをおくります。

同封したもの（カンパのこと）は、駅頭で、また職場で、働く仲間たちから集めたものです。わずかですが、何かの足しにして下さい。

中には三池労組に、と聞いてわざわざもどって来て、カンパしてくれた人もありました。がんばって下さい。ご健康をいのります。

大阪門真にて　一党員

▼なお、森田さんのお住まいは「大阪府門真市本町二〇―三」です。心からお礼を申し上げます。

また福岡県総評オルグの福岡正克さんほかの方々からも、「一円硬貨を貯金したものです。どうぞCOカンパに」とか、「闘争資金の一部にして下さい」とか、心のこもるカンパをいただいています。心から感謝致します。

こんどは森田喜芳さんという人から、うれしい便りとともに三千円ものカンパが送られてまいりました。感謝の意をこめて、便りを次にご紹介致します。

――三池労組の仲間たちよ。長い闘いにめげずよくがんばってこられましたね。

解説

政府はどう出る？

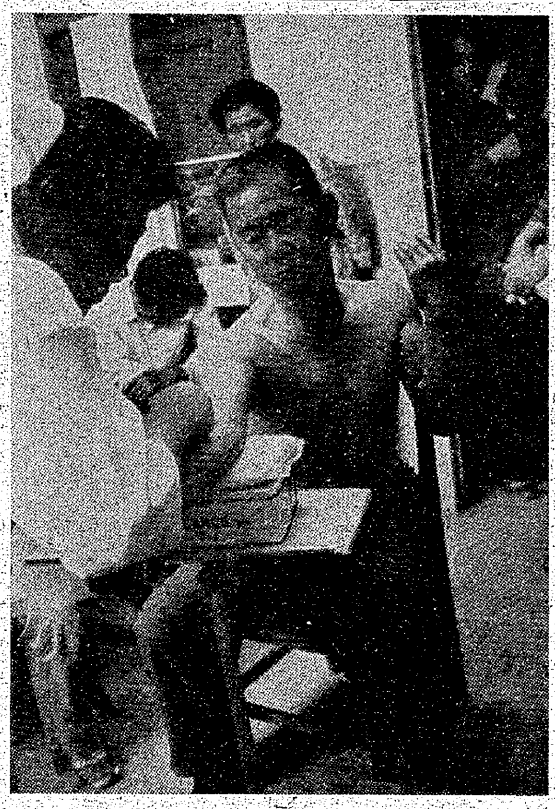
重要段階にきた〝七級認定〟問題

三池労組のCO不可能になり、低賃金の坑外作業闘争の二つの要求にやむを得ず移り、苦しい生活をは〝前收補償〟で送らなければならなくなったことである。これはCO患者が、本来ならば対相的に高い賃金の坑内で働いていたのにはからずも大爆発によって坑内労働が不可能になり、低賃金の坑外作業にやむを得ず移り、苦しい生活を送らなければならなくなったことを思えば、当然過ぎる要求といわなければならない。せめていくらでも、その要求の意にもとずいて「法的補償を行なえ」として、「問題になっているのが七級認定である。

現在入通院、既職場復帰者を含め、二百十人ほどのCO患者が、「七級認定」を要求しながら、障害認定申請を政府に提出している。政府はいよいよ、その認定決定を行なう重大な段階を迎えた。

もともと労災保険法による障害年金の限界がつまり七級までで、八級以下十四級に至るまでは一時金ですまされることになっている。新労組や職組や組夫のCO患者は、ほとんど一時金で泣き寝入りしながらまっ殺されてしまったが、三池労組は「そのような不当は許されぬ」として闘った結果、例のCO特別法を成立させたばかりでなく、その審議の際における労働大臣答弁の形で「七級認定を行なおう」との固い約束をとりつけたのだった。

今果たして政府が、その約束にもとづく認定を行なってくるかどうかにみんなの目が集まっているが、これまでの例に見るばかりでなく、ますます加わる情勢のきびしさを思えば、期待を大きく裏切ることは必至だろう。三池労組は重大決意を秘めながら政府の動きを見守っている。



一日も早くなおろうと、CO中毒患者は一生懸命。それを政府・三井は、まつ殺しようとたくらむのだ。

驚いたか三井鉱山

団結駅伝　息吹もり上げ終る

職場に地域に、明るい話題をふりまき、春闘への力強いいぶきを呼び起こしながら、第一回職場対抗団結駅伝大会は十五日に終った。

文字通り家族ぐるみの団結駅伝のこと、予想を上回って三池労組の旗を楽しいふんいきが包んだ。

三池の闘いを少しでももり上げよう、との組合員の気組がいろんな創意となって駅伝に集中したが、その一つが選手が胸や背につけたゼッケンで、ただ選手番号だけでなく、「沖縄を返せ・安保廃棄」「首切り合理化反対」「公共料金値上げ反対」「春闘勝利のゴールイン」、はては「春闘だ、アッとおどろく三井鉱山」など、ときの要求を高々と掲げているところにさすがに「三池」の駅伝であることを思わせていた。

職場でも地域でも、駅伝のたのしかった思い出話はこと当分つづくことだろう。

三川指導部三分会チームが優勝の栄冠を勝ち得たが、ちなみにその日の順位は次の通りである。

優勝＝三川三、二位＝宮浦七・八、三位＝同二、四位＝四山六・七、五位＝同五、六位＝宮浦六。

右の六位までが入賞で、とくに優勝チームに優勝旗、二位にトロフィー、三位に楯が与えられた。

七位以下はすべて敢闘賞だったが、その順位は次の通りである。

三川九・一〇、同八、四山三・四、宮浦四・五・九、港務一・二・三、三川七、同一、同四、本所二、三川五、本所三、四山二、同一、宮浦三、港務四・五執行部、三川二。以上二十三チームだった。

なお、優勝の三川三チームの走破所要時間は五十六分三十八秒。最下位の三川二チームが六十六分十八秒。その差は十分足らずだったことが、せり合いのはげしかったことを示している。

豆ニュース

沖縄核かくし返還で「戦後に終止符」と佐藤首相が施政方針。新たな〝戦前〟にはいるのココロ。

×

ベトナム戦の〝非米化〟どころか、ラオス戦争の〝米国化〟が目立つ。ジャール平原で激戦。

中央行動終る

炭労、厳しい情勢の中で

炭労の中央動員行動は終わり、三池労組代表は帰山した。

こんどの動員はすでに破たんした第四次石炭政策によるなだれ閉山の防止と、危機に直面している雄別・尺別などの再建のため、当面急を要する資金を集中して投入せよ、と政府に求める行動だった。

動員部隊は五日～十三日まで通産省における座りこみなど、行動を行なうとともに、石炭鉱業審議会や衆議院石炭特別委員会などへの要請を行なった。

しかし政府は、「再建計画は建て得ない」として、雄別などを見殺しにする態度に終始し、結局は閉山にもとづいて問題の処理に当たる以外にないこととなった。その上で、炭労は未払賃金の支払いその他一〇〇％勝ち取ることができた。

なお十九・二十日に開催予定だった炭労臨時大会は、三月二～四日に延期される。

70年闘争に勝利を！

〝釜ケ崎〟労働者から便り

このほど思いがけないことに大阪の釜ケ崎の労働者の田中義起さんと武田幸七さんという方々から、三池との連帯を求めるうれしい便りをいただきました。ここに紹介し手紙による交流運動を起こし、連帯を強めることにしましょう。

田中義起さんの便り

遠く大阪の地より、闘う三池の皆様に連帯のご挨拶を申し上げます。

私たち「釜ケ崎」の未組織労働者は、昨年の五月に釜ケ崎を含め全労働者の解放を指向して立ち上がりました。活動家においてまだまだの点はありますが、将来を確信しつつ、学習に闘争に頑張っております。三池の皆様、よろしくご指導下さいますようお願いいたします。

藤野書記長もよろしくといっております。

（田中さんは全港湾労組関西建設支部西成分会＝大阪市港区南市岡二丁目十二番二十八号）

武田幸七さんの便り

闘争でご苦労さまです。私たちはいま、いわゆる「釜ケ崎地区」（大阪市西成区）にて闘っている労働者です。

私たちは先月二十九日学習集会にて、貴労組の闘いを大いに学習しました。朝日ジャーナルを参考にして。

真の戦闘的労働運動と七〇年闘争の勝利のため、大いに頑張りましょう。

（武田さんは便りの終わりに書かれています―「全港湾関西地本建設支部釜ケ崎大学グループ＝今のところ学習グループ」と）

×

組合員のみなさん、お二人を大いにはげまし、交流を深めましょう。

建設支部の新聞